

薬理学5(自律神経系・体性神経系に作用する薬物)

責任者・コーディネーター	神経科学分野 駒野 宏人 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学分野		
対象学年	3	区分・時間数	講義 12時間
期間	後期		
単位数	1単位		

・学習方針（講義概要等）

神経系・筋に作用する医薬品の薬理及び薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集及び適正使用に関する基本的事項を修得する。

・教育成果（アウトカム）

自律神経系や運動神経系、知覚神経系に作用する薬物と適応される疾患・副作用を理解し整理することによって、神経系・筋に作用する医薬品を適正に取り扱うための知識を得る。
(ディプロマ・ポリシー：2,4)

・到達目標（SBO）

1. 交感神経に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
2. 副交感神経系に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
3. アドレナリン反転、アセチルコリン反転がなぜおきるのかを理解し、説明できる。
4. 神経節に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
5. 自律神経系に作用する薬物が適応される疾患を説明できる。
6. 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
7. 運動神経・骨格筋に作用する薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。

・講義日程

(矢) 東 103 1-C 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
11/22	木	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	自律神経作動薬について：交感神経興奮薬・遮断薬 1. 交感神経に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。 2. アドレナリン反転がなぜおきるのかを理解し、説明できる。

11/26	月	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	自律神経作動薬について：副交感神経興奮薬・遮断薬 1. 副交感神経系に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。 2. アセチルコリン反転がなぜおきるのかを理解し、説明できる。
11/30	金	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	自律神経節興奮薬・遮断薬について 1. 神経節に作用する主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
12/3	月	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	自律神経作動薬のまとめと演習 自律神経作動薬について：交感神経興奮薬・遮断薬 1. 自律神経作動薬について主な薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。 2. 自律神経系に作用する薬物が適応される疾患を説明できる。
12/7	金	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	知覚神経系に作用する薬：局所麻酔薬について 1. 代表的な局所麻酔薬を挙げ、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
12/10	月	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	知覚神経系に作用する薬：局所麻酔薬について 1. 局所麻酔薬などを挙げ、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
12/14	金	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	運動神経・骨格筋に作用する薬物について 1. 運動神経・骨格筋に作用する薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。
12/17	月	1	神経科学分野	駒野 宏人 教授	運動神経・骨格筋に作用する薬物について 1. 運動神経・骨格筋に作用する薬物を列挙でき、その薬理作用、作用機序、主な副作用を説明できる。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬がみえる vol.1 神経系の疾患と薬、循環器系の疾患と薬、腎・泌尿器系の疾患と薬	医療情報科学研究所編	メディックメディア	2014
教	病気がみえる vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編	メディックメディア	2011
参	薬理学・薬物治療学 第4版	菱沼 滋	ティ・エム・エス	2014
参	ザ・マインドマップ	トニー・ブザン、バリーブザン 近田美季子訳	ダイヤモンド社	2013

・成績評価方法

講義中に実施する小テスト（10%）、定期試験（90%）で評価する。

・特記事項・その他

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
シラバスを参考にして、該当する内容を教科書で予習しておくこと。また、講義で用いたプリントおよび教科書の該当する箇所は復習しておくこと。
毎回課題を行い、ノート提出を行う。課題については次の講義の最初に解説・振り返りを行う。
中間テストに関してはその都度返却して解説を行う。
講義では、時々2人～4人程度のグループになり、講義内容に関して、お互いに「説明・質問をしあう。」「傾聴する。」「相手の答えに対して承認・質問する。」というコーチング的な関わりをし、学習内容の理解を深めるワークを実施する(☆)（全体の10%程度）。また、時々マインドマップという方法を使い、神経伝達物質や薬物の薬理作用の相互関係を理解することを実施する(☆)（全体の10%程度）。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック、CF-SX2）	1	コンピューターで作成した講義資料を講義室のプロジェクターで映写し、講義に使用する。